

外科・心臓血管外科における外科専門医修練

当院外科・心臓血管外科では若手外科医の教育にも力をいれており、積極的に外科専門医取得に即した修練を短期間でできるよう考慮しております。

当院の修練の特徴として

消化器外科のみではなく呼吸器、乳腺外科、大血管、末梢血管外科をくまなく研修できること、

上級医師は可能な限り若手医師に術者となってもらえるよう考慮していること、

学会発表、学会参加を積極的に支援、指導できること、

英文も含む論文発表を積極的に支援、指導できること、

などです。

< 1年間の外科専門医認定に必要な診療経験の研修可能数 > (平成 17 年度を元にして)

年間手術件数	456 例 (認定に必要最低数 350 例)
消化器及び腹部内臓外科	171 例 (同 50 例)
乳腺	44 例 (同 10 例)
呼吸器	36 例 (同 10 例)
心臓大血管	8 例 (同 10 例)
末梢血管	32 例 (同 10 例)
頭頸部・体表・内分泌外科	20 例 (同 10 例)
鏡視下手術	35 例 (同 10 例)

実際の卒後 3 - 5 年目医師の術者としての例数平均 150 例 (同 120 例)

< 1年間で卒後 3 - 5 年目医師が全国学会で発表できる演題数 >

外科系全国学会で約 2 題:外科学会専門医業績単位で 30 単位(必要最低単位数 20 単位)

以上のように 1 年の研修で外科専門医取得に必要な診療経験、業績の必要数のほとんどが満たされます。さらに当院では出身大学や出身医局を問わず若手外科医の研修(1 - 3 年程度)を受け入れる準備があります。